

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点の活動ーNAIST海外オフィスー

本学はアジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシアオフィスとタイオフィスを開設しており、これらオフィスを拠点として様々な交流活動を展開している。

インドネシアオフィスに関しては2018年4月に同オフィス常駐スタッフがボゴール農科大学主催の就職・留学フェアにブース出展し、新たな本学入学者の発掘に取り組んだ。タイオフィスに関しては2018年11月に同オフィスを拠点とした学生シンポジウムをタイで開催し、チェラロンコン大学、マヒドン大学及びカセサート大学との学術交流の推進及び優秀な留学生の獲得に貢献している。

また、インドネシアオフィス及びガジャマダ大学とのコラボレーションオフィスに関する活動状況の評価を実施し、検証の結果、これまでの活動内容から、同オフィスの設置を継続することが適切であることが大学執行部において確認された。

○ 学生海外派遣支援体制の強化

グローバル人材育成として博士後期課程学生を対象に、語学研修、ラボステイプログラムを実施した。平成30年度のプログラムでは、学生の海外での危機管理の認識を高めるため、研究科及び英語教育担当教員らと教育連携部門UEAが連携し、海外安全渡航、危機管理に特化したオリエンテーションを実施した。



〈インドネシアオフィス検証〉



〈タイ学生シンポジウム〉

ガバナンス改革関連

○ UEAの新人事制度の実施

平成29年度に確定した、新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)を平成30年4月から施行し、同年7月及び平成31年2月に教育連携部門において、新制度に基づくUEA(国際展開担当、留学生・外国人研究者支援担当)2名をそれぞれ採用した。このことにより、長期的視点で国際展開、留学生・外国人研究者支援を行う体制を構築した。

○ 職員の語学力の向上とグローバル対応力の強化

海外SD研修を実施し、参加者は、カリフォルニア大学デービス校にて大学職員へのインタビュー、語学プログラムへの参加を行った。海外SD研修については、報告会の開催とこれまでの成果報告書を学内ウェブサイト上で公表することにより本学職員へのフィードバックを行うことで事務職員の国際性の向上と高度化に貢献している。



〈海外SD研修〉

教育改革関連

○ 教員向けFD研修の実施

海外FD研修を実施し、理工系分野の授業見学、教員・ティーチング・アシスタント(TA)との意見交換等を通じ、教授法や学生の学習意欲向上のための実践的方法論等の学習ができ、本学構成員に授業改善に向けた意識啓発を行うことができた。研修終了後に報告会を開催することにより研修内容をフィードバックさせることができた。教育連携部門のUEAが同行し研修内容の確認及び課題の洗い出しを行うなど、研修の質の保証に努めた。

○ 1研究科体制始動に伴うカリキュラム、教育支援システムの充実

教育推進部門において、1研究科体制の教育プログラムに対応した教育支援システム(シラバス、履修登録、教育カルテ等)の整備、学生授業評価アンケートの実施、授業改善に向けた意識啓発など教育支援の充実を図った。



〈海外FD研修の様子〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 全学キャリアパス支援

日本人学生向けキャリア支援において、就職ガイダンスの内容の吟味、実施時期や講師の見直しに取り組むなど、従来のキャリア支援を改善し、さらなる充実を図った。特に、日本人学生向け企業インターンシップ支援として国内外のインターンシップ先の開拓に取り組み、次年度に初の米国企業インターンシップへの学生参加につなげるなど、海外インターンシップを促進した。留学生向けキャリア支援として、英語でのキャリア相談、就職ガイダンス、Networking event（留学生と留学生採用を考える企業との交流会）、日系企業就職に向けた日本語能力試験対策講座などを実施した。



〈 Networking event 〉

○ 留学生・外国人研究者支援の取組強化

平成28年度に発足したCISS（Center for International Students and Scholars）において、留学生と外国人教員・研究者の生活環境の改善に向けた支援の実施、体制の強化を行った。新たな取り組みとして、留学生交流係と連携し、「留学生のためのクレジットカード申込み説明会」を開催し、日本での生活の利便性向上に貢献した。留学生の生活相談に対する体制を強化することを目的とし、学内関係部署と連携し留学生ピアサポートシステム「NAIST留学生アンバサダープログラム」を新たに創設、10名の留学生をアンバサダーに任命し、プログラムの運用を開始した。



〈 NAIST留学生アンバサダー任命式 〉



〈 アンバサダー研修の様子 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)

○ 学生向け語学教育の強化

新たな学生の英語力強化プログラムとして「プロフェッショナルコミュニケーション特別強化学生制度」（英語力強化）を設け、特別強化学生がTOEICスコア650点以上の取得を目指す体制を構築し、特別強化学生の英語力強化を図った。留学生を対象とする日本語教育科目の開講や正規の授業科目以外にも地域ボランティアによる日本語補講を実施し、日本での生活・就職等に必要となるコミュニケーション能力の獲得や、親日派・知日派人材の育成に貢献した。また、地域ボランティア団体による日本語教室（週2回）を開催し、平成30年4月～平成31年3月に入学した留学生の80%が受講し、本学の留学生の日本語能力向上に貢献した。

○ 大学情報の発信と手続きの可視化

英語版大学ガイドブック及び研究科紹介の作成と協定校や国内外の関係機関への配布、電子版を本学ウェブサイト上で公表することにより本学の教育研究内容や国際交流について広く情報発信を行った。英語版ウェブサイト上で協定校からの交流学生の受入れ手順等を公表し、手続きの可視化を進めた。また、教育連携部門(DGE)のウェブサイトをリニューアルすることにより特に海外留学情報やダブルディグリー・プログラム協定の手続き等に関する情報を新たに掲載するなど本学学生・教職員に対する利便性を高めることができた。



〈リニューアルされたDGEホームページ〉

○ 海外教育研究機関との協定拡充及び学生募集活動

学術交流協定校の拡充（平成31年4月現在：29カ国・地域105件）に取り組み、留学生の大幅な増加によりキャンパスのグローバル化の実現につながった。（留学生数 平成26年4月現在：161名→平成31年4月現在：267名）日本留学フェアへの参加に加え、学術交流協定校で学生募集活動を展開し、優秀な外国人留学生の獲得につながった。

○ ダブルディグリープログラムの取組の強化と実質化

ダブルディグリー・プログラムについては、2件新規締結（パリサクレ大学、ソルボンヌ大学）することにより協定先の拡充を図るとともに、協定更新時期を迎えたプログラムについては、これまでの交流実績を踏まえて更新1件（ポール・サバチエ大学）、終結1件（オウル大学）を行うなど更新プログラムを精査することにより本学ダブルディグリー・プログラムの実質化に取り組んだ。



〈 留学フェアでの活動 〉